

## 北条地区タウンミーティング(要約)

平成25年8月18日(日曜)

【市長】 皆さんこんにちは。今日はお盆明けの日曜日というところがございます。休日で皆さんたぶんゆっくりしたいところじゃないかなと思いますけれども、このタウンミーティングにお集まりいただきまして、ありがとうございます。また北条地区まちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の皆様方には、このタウンミーティングの開催にあたりましてお力添えをいただきました。ありがとうございます。前回タウンミーティングを2年半前にさせていただいておりますけれども、もちろん前回に来られてない方ももちろんいらっしゃるわけで、ちょっとなぜタウンミーティングをやり出したかについてご説明をさせていただきます。今、松山には旧松山市、旧北条市、旧中島町あわせて41の地区がございます。やはり41地区の地区ごとにやっぱり魅力があったり課題、お困りの点があると思います。それを市役所で待っているのではなくて、もちろん市役所で待っているほうが楽ですけども、はたしてそれでいいのか。我々のほうが各地区に出向かせていただいて、そしてそれぞれの地区の課題やお困りの点をお聞かせいただいて、そしてすぐにできることから市政に反映させることが大切ではないかなと思ひまして、私が就任させていただいてから始めさせていただいております。おかげさまで、すぐに市政に反映できることから反映していきますので、最初は一カ月に1カ所のペースで回って41地区、市長の任期は1期48カ月ですので、1期の中で1巡できればいいなと思っていたんですけども、一気にこれを早めまして2年ちょっとで1巡目が終わりました。このタウンミーティングですけども、いわゆるガス抜きなどのためにやっているものではありません。聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないという姿勢でやっております。皆さんからいただいた意見に対しては、ここで私が基本的にお答えをいたしますし、また専門的な事柄になりますと担当の課長が説明をいたします。また、例えば国と絡むもの、県と絡むもの財政的な問題があるもの、そういったものに関しましてはいったん持ち帰らせていただいて、必ず一カ月を目途に地区にお答えをしているというのが松山市版のタウンミーティングでございます。1巡で終わると、ある意味簡単だったかもしれませんが、私が市長をしている間はずっとこのタウンミーティングを続けていきたい。皆様の声を聞かせていただきたい。そして、すぐさま市政に反映できることからしていきたいと今、2巡目に入っているところです。今日は午前中に正岡でさせていただいて、午後は北条という形で41地区目の6地区目に入った

ところでございます。今日は90分という長い時間になりますけれども、皆さん緊張されてるとさすがに肩がこってしまいますので、今日は北条北中の皆さん、そして高校の皆さん、大学の皆さんもお越しですので肩ひじ張らずにざっくばらんに意見交換できたらと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 内容は、鹿島の渡船場の北条側の掲示板のあり方についてです。現状は北条地区、また鹿島の情報発信は十分でないと思っております。そこでもし鹿島渡船場の掲示板の一部を北条地区まちづくり協議会専用で使用させていただければ、地元民が地元の意思で北条ならびに北条の宝、鹿島を演出をして地元ならではの情報発信を行いたいと思います。さらに鹿島の良さを最大限にアピールしますとともに、北条地区まちづくり協議会がしっかり活動していることもあわせて広報します。掲示板の一部専用使用をぜひよろしくお願いいたします。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部都市ブランド戦略課長の矢野です。情報発信は地域の皆さん方が一生懸命考えていただいたことを情報発信していくということで、我々外から見ているのではなくて中から見た視点も非常に重要ですので、そういったものを発信していく場としてどのぐらいのスペースがいるのかとかもございますし、内容がどういった感じになるのか、そういったお気持ち大変大事だと思っておりますので、観光・国際交流課から連絡させますのでご相談をさせていただければと思います。

【市長】 いいご意見いただきました。今、鹿島の渡し場のところの看板がどうかというのは頭の中にはすぐには浮かばないんですけども、私、うまいなって思ったのは、前の仕事で20年、愛媛県だけじゃなくて四国各地、中国・四国・九州までいろいろまちづくりを見せていただいて、生名島だったと思うんですけども、この島で何センチのものが釣れましたっていう釣り看板があったんです。ホワイトボードで、例えばスズキの62.3センチのが釣れましたとかを出してるんです。そうすると釣りに行く方が、なるほどこういうのが釣れるんじゃないか、それを上回ってみたいとか欲求として出てきますよね。その釣り看板、一つの看板だけでもうまいなって思いましたので、看板で例えば鹿島に渡ったらこういうことができますよとか、こういうものがありますよとか、そういう看板というのはいいアイデアだと思いますので、観光・国際交流課から電話させていただきますので、また話し合わせていただけたらと思います。いいアイデアをありがとうございました。

【男性】 合併後、市長さんもおっしゃられたように、公共機関等が中心に吸収されてきて非常に不安と不満が高まった時期ではあったんですが、

中村市長それから野志市長が続いて市長されて、特に公民館の事業については非常にご支援をいただいて、補助金等もいただいて非常に円滑に進めておるところです。その中で、「風早レトロタウン構想」についてですが、一部これに対する不満や反対が議会の中でも見られますが、これはぜひ市長さん自信を持って進めていただきたいと思います。これは松山市の構想の中の一環で、それだけに力を入れてるわけじゃないんですから、弱気にならないようにひとつよろしく願いをしたらと思います。その中で島の中の施設は当然やっていただかないかんもんです。博物館についても。ただ、人員については確かに増えてはおるんですが、私が思うにはやはり海と陸との動員をかけると。例えば海であると、今、堀江のほうにも力を入れられておるから、堀江港から北条港、あるいは風和里でも安居島でもかまんからそのあたりをどんどんと規制緩和、船を出せれる状況になれるんならそのようなことも考えて動員を図るということ。それから陸路については、大型バスが入れない、駐車場が少ない、狭い、あれじゃいかんで、やはり今の駐車場を高層化して1階に大型バスが入る、2階・3階に普通車が入るというように、車社会ですから車が入れない状況では動員を図ってもなかなか難しいという現実があるかと思うんです。だからそういうことも考えられて鹿島へお力入れられる場合には、ひとつ入れていただきたい。それと、レトロ構想が今年度は広域化になりましたけど、北条地域以外あと6地区。北条地区は海祭りがあるから公民館まつりなんか夏場しておりますけど、そのほかの地域は全部この時期夏祭りを公民館主催でやっているんです。主体が教育委員会から離れてるかもわかりませんが、広域でやるんだったら公民館のあたりを大いに利用されて、もっと大がかりな活動にするんだったらそこらの協力がいるんじゃないか、活性化協議会をこしらえとるけど、その中に公民館関係者は北条地区の館長補佐一人しか入ってない状況ですから、そんな状況では私は広域化の発展はないんじゃないかと思うんです。もう1点、クラブウの件ですが、先日クラブウから公民館を通じて多くの寄贈品をいただきました。これ非常に喜んでおります。この寄贈品は北条公民館だけじゃなくてほかの公民館あるいはまちづくり協議会、そういうところにもどんどんとお貸しする状況にはなっておるんですが、その点については市当局のお計らいで非常にクラブウさん多くのものいただきましてありがとうございます。厚く御礼申し上げますが、その中でクラブウさんの跡地の問題です。地域の活性化を考えた場合に市当局はどういうお考えが今現在でおありなのかをお聞かせ願ったらと思います。

【市長】 はい、わかりました。「風早レトロタウン構想」についてお話

をいたします。議会でいろいろ意見があったけれどもというのは、6月議会のことです。議会の発言については「市議会だより」で出ておりますし、また市のホームページでも公開されますので、どういう発言があったのかはそれを見ていただいたらと思うんですけれども、まず「風早レトロタウン構想」は、実際に北条駅前に来られる方も増えている。鹿島に来られる方も増えている。遊覧船の利用者も増えている。今、いい動きは確かに出てきております。今、県が主体になってしまなみ海道を世界のサイクリストの聖地にとやっておりますけれども、しまなみ海道にこれから注目が集まっていく。国内だけじゃなくて海外からの目も集まっていく。そういうときに松山としまなみ海道の中間にあたるのが北条なんです。風和里にしても鹿島にしてもそうです。よく言いますけれども、フーテンの寅さん、渥美清さんが好きだった場所が鹿島ですね。海の美しさにしても島の美しさにしても景色にしても、夜になったら満天の星が見えますし、魚介類のおいしさもすばらしいです。そういう宝がいっぱいある。でもそれを活かしかけてなかった。松山としまなみ海道の中間地点になるここが魅力あるスポットになったら人が来る。人が来たらお金も落としてくれる。地域経済の発展にもつながっていく。そういう場所が北条だから私は「風早レトロタウン構想」はやってるんです。申し上げたように地元の方々がやれるんだっていう気になってきたことが大きいこと。北条の方は傾向として松山の人に比べて公がやってくれるもんじゃっていう意識が強いです。そこが今、変わりつつある。これが大きいです。松山の三坂峠のふもとの坂本地区はほんとに地元の方々が頑張っていて、坂本のホテル祭りはものすごい人が来る地区になりました。坂本屋っていう遍路宿を復活させてますけれども、それは地元の方が中心になってやったんです。松山にそういう先に行った地区があるんです。今、北条は意識が変わりつつある。今からですよ、皆さん。今、議会でいろいろと言われましたけれども、今からは北条が試されているんです。今、いい形でいってますけれども、ここからしばむか、今からどうしていくかは皆さんだと思います。これは行政がほったらかしというのではなくて、もちろん我々も支えますけれども、受けとめてそして動いていただくのは皆さんですので、皆さんの頑張りにも期待したいと思います。もちろんバックアップはさせていただきます。そして北条、20年間、前の仕事で中国・四国・愛媛もとより九州のいいまちづくりを多数見せていただいたので、そのまちづくりの知識はあると自負しています。北条地区がそういう魅力のあるところだから、松山全体の地域経済の発展につながると思ってやっております。皆さんにも笑顔になっていただきたいと思ってやっております。ですので議員から何を言われようと、も

ちろんいい意見を言っていたく方いらっしゃるので、そういう方には耳を傾けたいと思いますけれども、あの発言は過ぎた発言ではなかったかと私は思っております。私は私利私欲のためにやってるわけではないので、皆さんにも頑張っていたきたいと思っております。

【都市ブランド戦略課長】 クラボウの件につきまして、先ほど備品のことについてお礼を言っていたということにも、こちらからもありがたく感謝を申し上げたいと思います。跡地の利用については御存じのとおり9万9,000平方メートルほどございますけれども、すべてクラボウさんの所有地で、本市としては同地が工業地域ですので、引き続き製造業などの活用を促進していきたいと考えてございます。クラボウさんによりますと、現在のところ会社としての利活用は未定であると伺っております、今後も引き続きクラボウさんの新規事業ですとか、企業誘致などについて情報交換を密にして情報の共有化を図って適切に対処してまいりたいと考えております。もう1点、先ほど鹿島の駐車場のお話がございましたけれども、イベントのときは確かにそういう状況なんですけれども、それ以外の通常期がどうなんだということもございます。そのあたり含めて地域のほうでご検討、ご協議をいただいて、どういったあり方がいいのかを、観光・国際交流課が担当になりますけれども、一定の考えとか地域でまとめれば、またお話をさせていただければと思いますのでよろしく願います。

【市長】 誤解のないように、私から「風早レトロタウン構想」について言葉を足させていただきます。私は市民の皆さんの前に立っているときは、にこにこしていると思います。それは市民の皆さんに対して怒ることは基本的にないからです。にこにこしてるほうが寄っていきやすいと思いますのでにこにこしてます。でも市役所の職員が市民に皆さんに対する仕事できていないという場合は強烈に怒ります。日ごろは皆さんににこにこしてるので驚かれるかもしれませんが、芯はしっかりしておりますので安心をしてください。それと議員さんのことですが、北条にもたくさん議員さんがいらっしゃっていいこと言ってくださる方もいらっしゃいますので、そういった議員さんのお声もしっかりと耳を傾けながら連携してやっていきたいと思っておりますのでご安心いただいたらと思います。

【男性】 建設的な意見が出た中でちょっと暗い話になるかなという気がするわけですが、自分が後期高齢者になって心配が多くて困るんです。どういう心配かといいますと、愛媛新聞に今日も関東大震災の記事が出ておりました。ちょっと前からこの愛媛新聞の被災地レポートというのを気になって読んでおりました。8月6日付けの被災地レポートの中で、

大きく見出しの中で「大地震まず逃げて」という題目で出とるわけです。北条に津波がくるということが考えられるかどうかということを含めて考えてたんです。この記事を見まして、あっそういう考え方もあるのかなというのが初めてわかった。というのは、この記事は東日本大震災による津波で壊滅的被害を受けた宮城県名取市閑上地区とあるわけです。この閑上地区の方は津波がこないと信じてたんです。ここは津波はこないだろうという前提で考えてたらしいんです。北条も皆さん津波がくるなんて思ってる人いないと思うんですよ。けれども実際にこういうことが起きたわけです。中の記事をとばして読んでみますと、「閑上には津波はこない、上條さんによるとそんな『常識』を信じた多くの人が発生から約1時間後に押し寄せた津波にのまれた。上條さん自身も地区を流れる名取川を津波が遡上している」というラジオ情報は『まるで想像できなかった』というふうに書いております。これラジオで聞いて、初めて皆わかったわけです。北条もたぶんそうだろうと思うんです。規模は違いますけれども、この東日本大震災のときには10メートルを超えるような津波だったわけですね。松山市の津波がどのくらいかというと、新聞には大体3メートル50センチぐらいと出ておりました。私の背丈の倍近くのものが津波としてくるわけです、3メートルで。3メートル50センチだったらそれより上なんです。こういうことが起きるんじゃないかなと考えるんです。それで心配するんです。北条の地区の避難場所が広報かなんかで出とったと思うんですが、市役所あるいは小学校の建物、この聖カタリナ大学も避難所になってたわけなんです。この聖カタリナ大学は避難所というのは私は近くなもんでありがたいなと思うんです。しかしよく考えてみると皆さんここに入るときにご覧になったと思いますけど、全部フェンスで囲まれてるんです。日中ここに職員さんがおって門を開けてくれれば入れますけれども、例えば北側から来た人はぐるっと回って南まで歩いていかなきゃいけないんです。その間に津波が押し寄せてくると思います。それから津波は海から順々にきますので、海岸の人がだんだん上がってくるわけです。その海岸辺りの人からこちらのほうへ来るのは市役所あるいは小学校へ避難を求めただろうと思います。これより上の方はそちらへ行くよりはここへ来たほうが近いわけです。人とかがっちゃんすることがないわけです。だから私はここへくると思うんです。ところが、ここの地域をよく見てみますと、学生マンションあるいは一般のマンションがすごく建ってるんです。それに個人住宅が密集しております。ということは津波が起きてここが避難場所ということになったら、押し寄せてくると思うんです。ここへ押し寄せてきてフェンスがあって入れない。学校の建物ですからフェンスがあ

って当たり前なんですけど、それを乗り越えて入る人はいないと思うんですよ。そのためにどうするかというと、この中にある「まず逃げて」とある。ところがここの学校からこちらの南側の人は道路があるわけなんです。この聖カタリナ大学の北側に農道4mの道路ができました。この道路ができて東を見るとまっすぐ上がるとバイパスへ突き抜けるんです。もう200メートルあまりです。よく見ていただいたらわかるようにバイパスは立岩川をまたいでおりますので、10メートル近くの高さになってるわけです。ここは私は避難場所として最適じゃないかと思うんですよ。ここへ避難したいと思っても農道が2メートル足らずのところをみんなが押し掛けると悲惨な状態になると思います。私は避難道路として市長さんをお願いしたいのは、バイパスへそういう避難道路を設けていただきたいと思っております。まだほかに言いたいことがありますけど時間がありませんのでこのあたりで失礼いたしますが、ぜひお願いをいたします。

【市長】 私も平成23年の3月11日の東日本大震災のときは東京で出張をしております、震度5強の揺れを感じました。結局羽田空港のロビーで一夜を明かすことになったのであの日も羽田空港で寝ております、毛布も特にいただかないで食糧もいただかないで地べたに寝たんで、ひとしおの思いがあります。被災地にも2回行かせていただきましたけれども、正確に把握をしていただくことが大事だと思います。ご心配になる気持ちはすごくわかるんですけども、今、南海トラフを震源とした地震が心配されておりますが、そのときの想定でも最悪に最悪が重なって松山の最大震度は7、津波最大高が3.9メートル、この直接的な津波の影響を受けるのは松山港で約115分後、2時間弱後と言われております。東日本大震災のときの震源は太平洋ですから、太平洋の深さと瀬戸内海の深さは違います。津波は地形に大きく左右されますので、スピードもそれで変わってきます。ですので、あまり心配しすぎることはない、適切に対応していただくことが大事だと思います。皆さんも海で泳いで足がつかないと不安だと思いますけれども、足がつくと安心感があると思います。ここは何メートルなのかをわかっていただくために、今、地元の自主防災組織と協力して標高表示板の設置を進めているところです。また聖カタリナ大学は標高が5.4メートル、北条北中学校は標高6.2メートルということになります。皆さんをお願いしたいのは、115分、時間があると申し上げましたけれども、地震が起こってやはりできるだけ早く逃げてください。逃げていただく方がいいですから、今から何を持って逃げたらえんじやろかという物を集めたりしたんでは時間がかかりますので、日ごろから備えていただくことが大事だと思います。皆さんの家には「防災マップ」が平成23年の3月に

全戸に配られております。あの後に東日本大震災が起きましたけれども、それで全部「防災マップ」が使えんようになったわけではありません。大事な情報はしっかりと載っています。1ページに出てるんですけども、今後なんらかの災害に遭うと思っている人は松山市の80%の人がいるんです。でも、タンスが倒れるのを防止する器具をつけたりちゃんと備えていますという人は20%しかいないんです。日ごろから備えていただくことが大事だと思いますので、これからも行政としてもやれることをどんどんやっていきます。けれども皆様も準備をしっかりとしていただけたらと思います。もうこれで避難箇所全然変えませんというわけではありません。国の想定が出て、県の想定が出ましたので、市としてもしっかりと対応していきます。新たな避難場所の制定などもしていきたいと思いますので、やれることしっかりとやっていきますのでまたご協力お願いします。

【男性】 市長さんには今後もますます支援をよろしくお願いしたいと思います。内容としては鹿島の遊覧船のことについてです。鹿島に私も遊覧船をそんなにたくさん乗ったわけではございませんけど、半年前くらい前に乗ったんですけど、あの大きな島1キロほどの島で、これを一周するわけですが、島の西側でいっぺんとまって、寒戸・玉理の説明を受けるわけですけど、やはりこのところは寒戸・玉理の二つの島をぐるりと回ってほしいと思います。そうすることによって、二見ヶ浦の関係も、近くで見れるんじゃないかと。春まつりのときに島に注連縄を張るんですけど、そのところから実感がわいてくるんじゃないかと思います。それと、もう1点は、平日は船長さんがおらんということで、事前に申し込んでくれたら遊覧船出しますということだったんですけど、できたら突然の申込みでも船を出していただければ、大変ありがたいと思います。

【市長】 この遊覧船ですが、実は新たな遊覧を一回やります。堀江港、かつては国鉄と民間の航路二つあったんですけども、両方なくなっちゃった。さみしくなったのを堀江の方が頑張って盛り上げていこうということで、今「うみてらす」という施設ができました。ヨットやクルーザーが停泊できる場所として、今、磨き上げていくところですけど、堀江港から鹿島の遊覧船を出して勝岡に白石ノ鼻がありますね。巨石があるところ。あそこに回って行って玉理・寒戸、鹿島のほうに回って行ってというクルーズを実験的に8月25日の日曜日、定員が雨のことを考えると20名ぐらいしかできないそうで、「もっと乗れんのか」言うたら「雨のこと考えたら乗れません」と言われたんですけども、ツアーをやります。これ、モニターツアーで無料ですけども、すでに60人ぐらいの応募があったと伺っておりますので、この遊覧船というのは皆さん喜んでいただけるコン



テンツかと思っていますので、今のコースのことも含めて、なお磨いていくようにしたいと思います。

【都市ブランド戦略課長】 若干補足をさせていただきたいんですけども、その周遊船の予約の話をしていただいたと思うんです。お気持ちは十分わかるんですが、実は予約をしてない方、してる方、両方いらっしやったりして、これまで何度か現場では、トラブルになったケースもあるようです。誠に申しわけないんですけども、現状としては予約をしっかりといただく形で取り組まさせていただく考えですので、ご理解を賜りたいと考えております。

【高校生】 高校2年生です。私、鹿島も北条もすごい大好きなので、これからどんどん盛りあがってくればいいなと思うんですけど、今、「風早レトロタウン構想」でどんどん鹿島を盛りあげていこうという話になって、すごくいいことだと思うんですけど、市長に伺いたいのは、この鹿島に誰が来てもらいたいのか、例えばさっき大型バスがとまれるようにしてくれとか、外国人が来れるようにとか、しまなみ海道みたいにするというような話もちよっと出たんですけど、しまなみ海道だったら、英語の表示があったり標識があったりとか色んな対策もされてますし、ターゲットを誰にするか、北条の人だけに来てほしいのか、それとも松山から来てほしいのか、愛媛県から来てほしいのか、全国から来てほしいのか、世界から来てほしいのか、ターゲットを誰にするかによっても北条鹿島を盛り上げていくにしてもその対策が変わってくると思うんで、市長が考える誰に来てほしいかというビジョンを教えてくださいましたら嬉しいと思います。

【市長】 はい。これはいい質問をいただきました。まず北条の良さを皆さん覚えていただきたいのは、やはり学校というのはその地区の文化の中心ですね。地区によっては子どもの数が少なくなって、学校が閉校になった。そういう地区はとたんに明かりが消えたように大変さみしくなってしまう例をいくつか見てきました。北条高校があります。大学も聖カタリナ大学があります。4年制大学欲しいとよその市が思っているけども、ほかの市は4年制大学ないところがあります。若い人がいるっていうのは北条の強みです。大学ってシンクタンク、研究施設ですから、連携して色んなこともやっていけるという北条の強みがあります。北条は恵まれたところですよ、そういう意味で。逆に聞きたいんですけども、あなただったらどういう人を呼びたいと思いますか。これは、悪いくせがあるって言ったんですけども、北条の人って公に頼りがちなところがあるんです。市長が言うんじゃあ市長が言ってるからってなりがちなところがあるんです。これは考えを変えて地元の方からこう思うんですけどってやっていったほうがいいと思う

んです。即座の答えなんで難しいかもしれませんが、私は後で述べさせていただきたいと思いますけど、どうだと思います鹿島は？

【高校生】 ほんとに最終的な目標としては、松山空港を国際空港にしてどんどん海外から、松山空港から鹿島にバスを運んだりして、しまなみ海道と同じぐらいな規模になれば最高です。例えば私らの世代高校生とかは遊びに行こうとなっても、映画観に行ったりゲームセンターに行ったり、どっか買い物に行ったりそういうところに遊び場として行ってしまいうんですけど、鹿島でバーベキューしようとかキャンプしようとか、そういう話になっていけば、ちょっとずつでも盛り上がるんじゃないかと考えてるので、私もちょっとずつ友達連れてきたりはしてるんですけど、まずはできることからしかできないと思うんですけど、最終的には大きい目標をいうと国際化。だけど、今のところはとりあえず北条の人が松山の友達を連れて来れたり、愛媛県の親戚を連れて来れたり、そういうお奨めできる島になっていけばいいかなと思っています。

【市長】 せっかくの機会なんで、皆さんどうでしょうかね。手が挙がりましたよ。鹿島にはどういう人が来てくれたらいいか、こうやって地元の皆さんが考えることが大事なんです。いかがでしょうか。

【大学生】 最近、CATVなどを通して鹿島のPRを取材させていただいています。そこで思ったのが、まだ私20年しか生きてないんですけど、今まで食べた鯛めしの中で一番太田屋さんの鯛めしがすごくおいしかった、でもやはり大学の友達を連れて来る場合に一番気になったのが、宿泊施設のことで、渥美さんとかも来ていただいたということで宣伝させていただいているんですが、床とか老朽化があってへこんでたりとか、やはり外観とかは気になるところで、宿泊施設が整ったらもう少し若い世代の方たちをはじめとして、色んな方を招待できるんじゃないかなと思います。宿泊施設の検討をよろしくお願いします。

【市長】 ほかに地元の方で何か考えられるところありますか。鹿島はこういう人が来てくれたらええんじゃないかな。ターゲットはこう絞ったほうがええんやないかな。いやいやターゲットは絞らんほうがええんやないかな。さまざま意見があると思うんですけど、どうですか。私から言いますよ。鹿島はものすごく可能性があるところだと思っています。今は、私はまだターゲットは絞るべきではないと思います。まず、しまなみ海道が国際的なサイクリングの聖地にしたいということですから、海外から松山に宿泊していただいて、しまなみ海道まで自転車であつていう動きがあるでしょう。逆に今治のしまなみ海道から入ってきて松山・道後に行きたいという方もいらっしゃると思います。この両方のルートが考えられますね。

その中で外国人の方も来られると思いますので、まだ今は英語表記はしてないですけども、台湾の方も来られると思いますので、そういう方の表記も必要になるかもしれません。外国の人に対しても、鹿島は魅力のあるところだと思います。例えば欧米の方は土手内の黒い板の塀がある住居がありますけども、ああいうのを見ると外国人の方はクール、かっこいいと思うそうです。鹿島の白い大鳥居ですか、あれ見てもクール、かっこいいと思うそうです。やっぱり外国人は日本人にとって当たり前とってても、外国の方はいいなと思うところが多々あるそうです。外国の方にとってもいいと思いますし、車が入って来ない場所なので、子どもが安心して遊べる場所でもあります。おじいちゃん、おばあちゃんが、お孫さんを連れて行くこともできると思いますので、子どもさん、おじいちゃん、おばあちゃん。そして若い方が海水浴楽しむ、バーベキューを楽しむこともあると思いますので、ターゲットは無限に広がっていると思います。これは行政が主体になってやるのもいいと思いますけども、例えば民泊って民間の方が、うち海沿いにあるけん旅館してみようかと思う。三津のほうで確か民泊があったと思うんですけども、そういうやり方もあるかと思っています。ちょっと予算的なことを言わせていただくと、今、松山は四国の中で財政状況は比較的いいほうです。ですけれども、油断をすると国自体が1千兆円の借金を抱えておりますので、地方交付税交付金とか国庫支出金という形で国から地方にお金が回ってきますが、大もと1千兆円の借金を抱えていたら、地方に回ってくるお金がこれから増えるとはとても考えにくい。実家のお父さんお母さんがお金苦しんでるのに、仕送りが増えるとはとても考えにくいですよ。JR松山駅の高架は県がやります。周辺整備事業は松山市がやります。今、周辺整備をやっているところです。松山外環状道路を坊っちゃんスタジアムのそばに今、つくってますけども、あれは松山インターチェンジと松山空港の時間がかかり過ぎているんです。30分以上もかかっているんです。全国の24地区で調査しましたけども、4カ所だけ自分とこのインターチェンジと空港が30分以上かかっている。それはどこかというとなら松山と北海道の3地区だったんです。これは松山インターチェンジから天山、朝生田に入ってきて、環状線回って新空港通りを降りる。30分以上かかっているのが10分になるほか、5つぐらいのメリットがあるので、松山外環状道路つくってますけども、このようにやらなければならないことがあります。松山市民会館は、延命化をしないといけないので耐震化工事しています。松山市総合コミュニティセンターも大分老朽化してきました。こういう高度経済成長の時代につくったものが大分老朽化してるので、公共施設マネジメント担当課長を今年4月からつくりまして、

何をやめていくかも考えていかなきゃいけないんですけども、やらなきゃいけないことがあるので、やはり行政が全部主体になってやるというのはなかなか難しい時代だと思いますので、民間の方の力もいただきながら進めていきたいと思います。

【男性】 安居島の児童のことです。新入生を受け入れるにあたりまして、関係の皆さん一緒に集まりまして、私ども打ち合わせをいたしました。その際に申し上げました内容で、ご返事をいただいてないというか、改善策が何も示されてないことについて限定して発言をいたします。まず一つです。船で子どもが来るわけですが、台風で来ない場合は島におるんですから問題ありません。問題はこちらへ来てから台風で船が動けない、あるいは霧で動けないというときに、どのようにするのかということについて意見を申し上げておりますが、未だそれについての対策は示されておられません。ですから、どのように検討を今日までされて、どうするのかというのを明らかにしてほしい。もし、それができてないということなら、事後文書で回答をいただきたいことが一つです。それから二つ目です。向こうから来られると経済的にも、大変父兄の方は負担をされておりますが、それについて市当局としてどのような援助をされるかについての二点です。

【生涯政策課長】 教育委員会の生涯学習政策課の津田と申します。まず、2点目のほうからお話しいたします。安居島から、1年生の児童が来られていると思いますけれども、通学支援という形で船の定期代は全額六か月ごとに出していると承っております。最初の1点目の、こちらに来られてから安居島に帰るときに欠航した場合の対応ですけれども、色んな課がまたがっておったんですけれども、話をまとめて聞いたんですけども、話し合いのあった席の中で、PTAの方、学校の方、どういった形が一番いいのか研究されるという話を聞きまして、そのときに出たのが、例えば寮をつくるという話については現実的ではないということで話し合いの中から消えていったと聞いております。現実的に可能なのは、どのような形でお子様をお預かりするかというところで、今、学校のほうで最終的な色んな検討をされていると聞いております。

【男性】 子どもたちが台風とか欠航したときにどのようにするかは、私も当時出席しまして検討しました。PTAの方も地域の方もどなたも、子どもを泊めてやろうという方がおられなかったものですから、私が学校に年寄り二人が住んでおるけれども、欠航したときには、よかったら泊まってください。私のところにも小学校一年生の孫がおりますから、その子が泊まるときには、孫を呼んできてでも泊めますからと、一応は市には申し上げておりますので、そのあたりが市のほうに通じてないのであればちよ

っと残念と思います。

【生涯学習政策課長】 申しわけございませんでした。私どもお話があったというところまでしか聞いてなかったものですから。もし、そのような事態になったときには、積極的にご協力いただければと思いますのでよろしくをお願いします。

【市長】 ありがとうございます。そのようなことまで言っていて大変ありがたく思います。安居島から通われて、もし欠航が出たときに、どこに泊まるんだろうというのは切実な問題であろうと思います。そのようなお声をあげていただいて大変ありがたく思います。

【男性】 私、学校関係でいろいろ学校へお伺いしますと、大変先生方が忙しい。先生方は職員室に帰っていないような状態。ほとんど夕方に帰ってくるぐらいだと思います。なぜだろうかと。私も教員をやっておりましたが、もう10年も前ですから大分変わっておりました。例えば、電気や水道のメーターの管理まで報告せないかん、全部管理職を通して報告せい。これ松山市だけだと思うんですが。プールの水の漏水があつてから報告せいいうような形で来とるんじゃないかと思います。家庭の電気や水道はちゃんと見に来ております。学校の水道や電気も見る人がおります。その人たちに報告を上げてもらったら、学校の管理職まで通して上げる必要はないと私は思います。そういうことがたくさんまだあると思います。本当は子どもたちと一緒に非行の問題とか登校拒否の問題について、一緒に遊んでやることが一番大事じゃないかと思うんですが、そういう時間が取れていないように思うんです。私らはそうでなかったように思います。一生懸命子どもたちと一緒に遊んで、子どもたちの中から私らのほうに言ってきてくれる、同じ仲間として認めてもらったと思うんです。ところが、今は先生は先生。子どもは子ども。秘密があつてそれを先生に言うことはない、というような感じで見えております。もう低学年からそうです。ですから先生もそこまで一緒に見てないじゃないかと。先生のほうにも問題があるかもわかりませんが、そういうように私は感じております。それを少しでもいい方向に向けていくためには、行政も別の業者に任せているんだったら、そういうのに任せてやってくれと言いたいと思います。プールの測定についてもいろいろあります。不審者対応にしてもありますが、防災についてもそうです。以前はそこまではなかったと思うんですが、段々厳しくなってきました。そこを何とかできるものなら、やってあげてもらいたいと思います。前に立岩のタウンミーティングで、子どもたちが八十八カ所の問題を市長さんに申し上げて、すぐになった。これは大変嬉しいことで、子どもたちの言ったことを取り上げてくれた。今、中学生おりますけれど

も、中学生も意見を述べてもらって、取り上げてもらったら、その子は次に大きくなったら色んなことを言って、よくしていこうというふうになってくるんじゃないかと思います。

【生涯学習政策課長】 教育委員会の津田です。まず、1点目の水の使用量の管理ですけれども、確かにきっかけとなったのは、学校プールにおける水道水の流出というご迷惑をかけた事件がございまして、それからではございますけれども、そのときに教育委員会全体を見直そうと考えたのが、漏水の発生をまず防ぎましょうとか、使用量を皆さんで管理していただくことによって、松山は割と渇水に弱いところですから、そういう意識も、もっと高まるんじゃないかというところで、水道の使用量チェックをお願いしているところです。あと電気の問題も出ましたけれども、電気等は照明の消し忘れがないように節電に努めてもらいたいということで、これもお願いしているところです。確かにこの数年、学校の先生の負担というのは計り知れないものがあります。そういったことから、松山市の教育委員会から県の教育委員会にお願いをして、本来の定数以上の先生枠という形で、加配という言い方をしているんですけれども、教員を配置してもらっております。小学校でいいますと全体で約200名近く、中学校でいいますと全体で150名近く、それに加えて松山市独自で非常勤職員と再任用職員もお願いして、可能な限りの施策は取っておるんですが、いかんせん以前に比べ、教職員の範囲も幅広くなって、時間の制約もかなりしているという実情は我々も熟慮しておりますので、できる限り効率よくできるように、学校内に早いパソコンができるシステムを加えておりまして、なるべく実務的な量を減そうとしております。

【市長】 教職員の方が大変忙しそうだというのは、私も心配をしているところです。身体的面からも心の面からも、あまり好ましくないと思っておりますので。市の教育長と何かできる方法がないのかを、また話しておこうと思います。市民の皆さんから何で？と聞かれたことがあるんですけど、実は松山市立の小学校や中学校の先生が不祥事を起こした場合、市の教育委員会ではなくて県の教育委員会が出てくるんです。実は、松山市立の小学校・中学校の先生であっても県職員なんです。県が採用してお給料払って、監督責任は市の教育委員会が持っているという形なので、何か不祥事を起こした場合は市の教育委員会では処罰できない。県教育委員会が決めてくる。市の教育委員会から県の教育委員会に行って、県の教育委員会から降りてくるという形なので、ちょっとタイムラグがかかってしまうところがあります。ですので、松山市としては以前から愛媛県に対して、人事権はもっと生徒に近いところにください、人事権をくださいと言

っているんですけれども、松山市立の小学校・中学校の先生方は県職員であって、採用は県で、給料払ってるのは県で、そして監督責任は市にあるという、ちょっといびつな構造にあるというのがお答えになります。

【男性】 地区社協のお世話をさせていただいておりますが、この第8ブロックに児童館が一つもありませんので、まあ欲を言えば各地区に一つずつほしいんですけれども、しいては第8ブロックに一つほしいんですが、建物を建ててくれ言いますとお金がないからとか、なんとかいうて断られるんですけれども、一つアドバイスですが、文化の森に保健センターがあると思います。この保健センターが、僕は文化の森の福祉の支所に三日に一回くらいは行くんですが、通ってみても人が入ったり出たりしよるのを滅多に見ません。これではもったいない。あそこは公園があって、よそからも松山市内からも公園へ遊びに来る。児童館も横にあればもう一番便利やと思うんで、保健センターを児童館に変えていただいて、保健センターは市役所の北条支所、空き部屋がたくさんあると思います。その中に代わっていただいてということで意見を言わさせていただきます。

【市長】 児童館についてお話をさせていただきます。さっきちょっと県の教育委員会、市の教育委員会のことで付け足しをさせていただきたいので。人事権の話ですけど、何で県が市になかなか人事権を移してくれないかということ、ちょっと心配があるんだそうで、松山市が全部人事権を握ってしまうと、松山市だけがいい先生を取ってしまうんじゃないかという懸念があるそうで、なかなか県は人事権を渡してくれないという現状があるそうです。先ほどの児童館のことですけど、この児童館は41地区全部に児童館を設置できたらいいんですけども、なかなかそうもいきませんで、拠点地区を設けて児童館を設置している状況です。今、松山市内に7カ所の児童館があります。八つ目の児童館として、今ある児童館の距離からすると、旧北条地域は有力な候補地の一つとしてとらえております。今回の北条のほかにも正岡・浅海・栗井・河野地区のタウンミーティングで、こういう児童館の要望が寄せられております。また、先日堀江のタウンミーティングで小学校の女の子が、堀江の近くに児童館をつくってくださいという要望がありました。こうした状況ですので、旧北条地域の住民の皆さんや関係の皆さんに取り組んでいただいて、今後のことについて話し合いができる場づくりにご協力いただけたらと思います。やっぱりいろいろ候補地がありまして、あるところは交通の利便性はいいんですけども、ほかにデメリットがある。ほかはこういうメリットがあるんですけども、ちょっとこういうデメリットがあるんだ。総合的に検討しなければいけないところがありますので、一歩進んで話し合いができる場づくりにご協力いただ

いたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【男性】 昨年度は「花へんろ橋」すばらしい橋をつくっていただきましてありがとうございます。先ほど大学生の方が鹿島の太田屋の鯛めしがおいしいと言っていたきまして、地元なんでほんとありがとうございます。鹿島の太田屋の修繕をしようとしても、費用が今大体3千5～6百万かかり、保証金というか借り入れるにも収入がちょっと難しいと。どこか補助金を借りるにしても事業的にもちょっと難しいと。頑張ろう思っても、頑張る方向性が見えないというのがまず第一。それと、各町の区長さんいっぱい来ております。テーマ2の児童の健全育成となってるんですけど、3地区あわせて小学生が3名です。1地区1名なんです。今後5年・10年たったら小学生も一人もいなくなるんが目に見えとるんです。それで市民参画まちづくり課のほうに出向いて、私らのときで合併の話をするめたいと。地元から話を上げたら市としてはそれに判断する方法がないですと回答は得たんですけど、地元としては逆に行政のほうから、来年度からの広報委員制度なくなりますよね。それに対応して近隣合併話をもっとすすめていきたいです。行政のほうからなんかいいアドバイスがあれば一番いいんですけど。

【市長】 鯛めしの太田屋さんの補助の件、また区の合併のことについて二つ挙げられましたけども、太田屋さんのことは補助メニューか何かあるのかちょっと検討させていただく形ですかね。これは持ち帰らせていただいて、色んなメニューがある中から何か適合するようなものがあればと思います。区の合併。

【市民部長】 市民部の吉野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ご質問ありがとうございます。旧北条地区のこの辺りは昔から区の制度を導入されて地域の活動や運営に取り組まれております。現在の区割りには地域住民の方や区長会の合意を得て、過去ずっと決定されてきたと考えております。区の廃止や統合につきましても、やっぱり同様の手順が必要と考えますので、区割りの変更を行うことにつきましては、その区の活動や運営方針に大変大きな影響を与えるということが考えられますことから、お気持ちをご質問もよくわかるんですけども、行政側からはちょっと難しいということで、あくまでも住民が主体となって検討されるべき事案ではないかと考えております。

【市長】 この件ですけれども、地域の方が主体でやっていただいたほうがいいのかと思いますけども、ときには行き詰まることもあると思いますので、私どもはそばにいさせていただいて何か困ったらサポートさせていただくというふうに思っております。ポンと突き放してるのではなくて、地



域主体で決めていただいて何かお困りの点があったらすぐに言っていただいたらサポートさせていただくというふうにとらえていただいたらと思います。

【男性】 先日、愛媛新聞に鹿島の鹿が10頭以上どっかへ捕獲するということが報道されましたが、それはどこにいつごろされるのか、わかっておる範囲で教えていただけたらと思います。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課です。おっしゃるとおり、新聞にも報道されたと思いますけども、鹿島には、今、鹿園に32頭そして鹿園以外に55頭、計87頭の鹿がおりまして、この中で野生の鹿については個体数の管理とか観光客の方の安全面を考慮しまして、先ほどおっしゃられましたようにメス鹿のみを野生鹿として、オス鹿のほうは管理する今の鹿園とは別のところに、新たに管理園を設置しまして囲っていきたい。そして、個体管理をしていくということで考えております。場所のほうは、いろいろ限られた敷地ですので、適地を検討しているところでして、現段階でここというのは申し上げられないんですけども、いい場所を選んでいきたいと考えております。それから、樹木の被害などもございますので、防護ネットなど設置することで野生鹿も、観光客の方、市民の方、楽しみながら触れあっていただける形もとれたらと考えております。

【男性】 このタウンミーティングに参加するにあたって、事前に意見等を収集されたと思うんですが、これらに対する検討事項等については、今日は時間の関係上できなかつたかもしれませんが、どういう形で我々に回答がいただけるのでしょうか。

【タウンミーティング課長】 タウンミーティング課長の橘川と申します。事前の申込書に皆様方からご意見いただきました。基本的には、タウンミーティング当日に出されたご意見につきましては一カ月を目途に市の対応状況を一覧表にまとめまして、皆様方にお伝えをしております。それ以外の当日できなかつたご質問で、これはどうしてもお聞きしたいということがございましたら、市の制度としましてメールまたははがきで申し込みをする制度もございますので、そちらの制度をぜひご利用していただいて、市に質問していただければ私どものほうから、またお答えをさせていただきますと思います。

【市長】 今、ご覧いただいているのが、松山市のホームページのトップページといいまして、最初に出てくるページです。ここに市長への「わがまちメール」というところがあります。パソコンができる環境ある方は、これで直接私のほうに届くメールなんですけども、これを使っていただいても結構ですし、今日も出口ではがきを取っていただきますけども、そのは

がきで何かご意見があれば言っていたいただいても結構ですし、封書でも結構です。窓口は常に開いておりますので、どうぞ何かご意見ありました言っていたいただいたらと思います。今回、色んな皆さんからご要望をいただきました。前回のタウンミーティングでも申し上げたかもしれませんが、皆さんからこういう要望、「市長これしてほしい」、「市長あれしてほしい」という要望が出されると思います。私も人間ですからその要望にすべてお答えできたほうが市長の人気取りから考えるとそれはいいかもしれませんが、でも、今日は若い方々にもご参加いただいておりますけども、何のためにタウンミーティングをやっているかという、決してガス抜きのためでもありませんし、人気取りのためでもありません。やはり国の財政自体が1千兆円の借金を抱えてますから、松山市の財政もいいとはいっても油断をすることはできない。だから今、皆さんの声をしっかりと聞かせていただいて、やるべきことをしっかりととらえたいと思います。今は何をすべきなのか。今やっとならないと後手後手に回ったのではいけないと思いますので、皆さんの声をしっかりと把握するために、タウンミーティングをさせていただいております。「わかりました、これもやりましょう」、「わかりました、あれもやりましょう」、市長の人気取りのためにはいいかもしれませんが、それは将来の世代につけを残すことにほかならない。ですから、そのときその時代はよかっても後の時代に借金を残すようなことはしたくありませんので、やるべきことはやるっていうスタンスをもとに、これからもやっていきたいと思います。今日、タウンミーティングでさまざまご意見いただきましたけれども、皆さんにお願いがあります。市役所を敷居の高いものだと感じないようにしていただきたいと思います。どうぞ皆さん言っていたいただいたら、実は「こういう制度があるんですよ、こういうことでサポートできるんですよ」とかいう補助メニューをお伝えできたり、また事例をお伝えしたりアイデアをお伝えすることもできます。市役所三文字にわかれます。市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければならないと思っておりますので、どうかこれからも敷居を高くせずに、いろいろと相談をしていただいたらと思います。もし、あつてはならないことですが、市役所の職員で対応が悪い職員がおりましたら、「わがまちメール」でこういう職員がおったぞと言っていたいただいたら、私から言うこともできますので、そうあつてほしくないんですけども遠慮なく言っていたいただいたらと思います。皆さん御存じのように、私は一市民から出てきた人間です。もともと政治家になろうと思って働いていた人間ではありません。北条の別府に実家がある、それこそ田んぼも畑もみかん畑の経験もある人間です。これからも市民感覚を忘れないでいたいと思いますし、そ

のためには皆様の声に常に耳を傾けていきたいと思えます。私のできるこ  
と、私の持ち味は行政と皆様の距離をもっと近くしていくことが、私ので  
きることだと思っています。皆様もこれからもお力添えをいただきますよ  
う、お願いを申しあげまして本日のタウンミーティングを終わりにさせて  
いただきます。本日は長時間にわたりましてありがとうございました。

— 了 —